

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で根ざしたサービスを提供していけるよう、意識し、理念に掲げている。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ミーティング・スタッフの個人面談のときなど理念を確認し合い、関わりの時に意識するようにしている。	○	日々のミーティングで、再度、掘り下げて意識し、考えていく。
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族の方へホーム便りを活用し、理念を盛り込み、面会時にも意識して話をするよう心掛けている。	○	地域的な面とけ込むことはなかなか難しいが、勉強会や地域包括センターの方々の力も借り、まず、立ち寄りやすい場所であるように、回覧板などにグループホームのことも掲載してもらったりして、少しずつ進んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域的に住宅等が周りにあまりなく、難しい面もあり、隣接されているアパート(援護寮・三心館)の敷地内に育てている花や野菜畑などがいつも散歩コースとなり、挨拶されたり立ち話をしたりと交流を図っている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の小学校より授業の一環としてお年寄りの生活を学ぶ機会を設けている。その他、ボランティアの受け入れ、地方の人々と交流を図っている。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所の実践内容を踏まえ、様々な研修・介護教室に関わりながら認知症ケアの勉強を行っているが、地域の高齢者への啓発までには至っていない。	○	地域に対して、ホーム便りを利用し、相談機関として立ち寄ってもらえるように考えている。実際、数名、地域の方が見学に入らしたりと、前年に比べ認識はされている印象である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義・ねらいは、職員で毎年話し合い取り組んでいる。入居者さんも入れ替わったりと日常的なことも若干変化があるが、改善点を意識し取り組んでいる。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、日常の様子・レクでの様子など、サービスの実際の様子を発表し、意見をもらっている。意見・ご要望があった際は職員全体で話し合うようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村担当者との連携は多いとは言えないが、地域包括センターの方に勉強会としてグループホームに来ていただいたり、区役所の担当の方と情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	情報としては理解しているが、職員とともに学ぶ機会までは至っていない。	○	地域包括センターのお気軽講座を利用し、地域の方・ご家族の方にも呼びかけ、勉強会を開いていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法は理解している。職員・ご家族の方向けに地域包括センターのお気軽講座を利用し、虐待について考えている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	あらかじめ契約書に目を通しておいてもらったり、時間をとって説明をしている。体調面・ケアに関する考え方も理解・納得できるよう話し合いをもっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日々の言葉・様子を察し、意識してかわり、利用者本位の運営を心掛けている。話し合いに出された意見は、日々のケアに活かすようにしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に積極的に暮らしぶりや健康状態等を報告し、タイミングが合わないときは、お便りを個別に出し、情報交換をしている。介護記録にも目を通してもらっている。金銭管理も月に1回、記録を郵送し確認していただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対しては、訪問時、手紙・電話でも何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。改善策は職員全体で話し合いをもつようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングは定期的に行い、気軽に意見を出せるように心掛けている。その他、少なくとも年1回は個人面談を行い、じっくり話し合い、職員一人ひとりと向き合う場も設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんのケアにそえるよう、勤務時間を考え、その都度ローテーションを組んでいる。管理者は通常のシフトには入れず、計画作成者は日中の勤務が多いため、利用者の状態に柔軟に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員による支援を受けられるように、離職を最小限に抑える努力は行っている。離職がやむを得ない場合も、引き継ぎや時期の調整など最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の方はすでに沢山のサービスを利用されている方が多く、早急な対応が必要な相談者には可能な限り、柔軟な対応を行い、スムーズに入居できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族より、入居前の情報収集をして、それをもとにスタッフがかわりを慎重に本人が不安にできるだけならないよう、ご家族等、面会していただけるよう協力して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔の生活・習慣・食事などを話題にし、参考にしたり、教えていただいたり、できるだけ一人ひとりの得意なことをしてもらえる場面をとりいれるようにしている。また、本人が心を開き、話をできるよう雰囲気づくりをするように心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と情報交換を常に意識し、協力していただき、本人を支えていくよう心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	両者に対して安心した関係を持てるように努めている。また、外出・外泊などを定期的に行い、一緒に過ごす時間を大切にしている。	○	面会などが途絶えているご家族の方へ、入居者さんへの関心を向けていただけるように、さらに、行事・誕生会の時などの声掛けだけでなく、定期的に1F独自のお便りなども出していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の家族への思いを汲み取り、機会があるごとに伝え、関係を大切にしている。また、ご家族の協力によりお墓参りなどの習慣なども大切にしている。	○	字が書ける・話ができる・電話が掛けられるなど、能力を活かせる入居者さんに対して、もっと働きかけをして大切な方々との交流を持てるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日頃より、入居者さん一人ひとりの性格・特徴を理解し、座席・散歩・行事などを常に意識して、よい関係ができるよう努めている。	○	長年の気質もあり、狭い空間での共同作業は難しいこともあり、より入居者さん同士の関係や雰囲気づくりにスタッフが介入し過ぎない努力が必要。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院など入院している方などは面会を行い、状態を知るようにしている。また、ご家族の方へは気軽にホームに寄っていただける雰囲気づくりを大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中で、本人の思いを探り、望むことや気にかけていることを知り、ご家族より協力を得られることがあれば行っていただく。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご家族の方より、本人の過去の情報を収集し、できるだけさりげなく話題にするよう心掛け、ケアに取り入れていくようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できるだけ本人が生活の中で、自主的に残されている能力を少しでも活かされるよう環境を整え、意識している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を利用し、入居者さんのことをよく知るよう努めてケアを考え、アセスメント～ケアプランへと反映させている。その際は、本人・ご家族・必要な関係者と情報交換を行い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の情報交換により、状態に変化が生じたときは検討し、見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	体調や状況の変化や問題が生じた時は、水分・食事・体重・排尿など、また、行動の観察が必要な時など、常に記録や職員でより情報交換を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・ご家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。入居者さんに応じて、ご家族の方が宿泊したりと柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的に料理(季節のもの・高齢者の好むもの)をしていただけるボランティアの方に来ていただいている。	○	社会福祉協議会にボランティア登録を行っている。料理のボランティアさんが来てくれ、昔懐かしい料理をつくってくれたりしているが、その他、色々今後見つけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の方の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用いただいている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加していただけるようになって、関係を築くことができたが、まだ十分に共同しながら本人本位の支援には結びついていない。	○	これからは、運営推進会議を通じて、より強力関係を築き、周辺情報を得たり、支援に関する情報交換を行い、より本人本位の支援に結びつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	よく知る看護職員に相談している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医に生活状況を相談・報告し、治療が受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院担当看護師と気軽に相談できるシステムとなっており、日常の健康管理を支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	情報交換を密に行い、安心して入院生活が送れるよう面会も行い、早期に混乱なく退院できるよう連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	グループホームでできることが限られているため、病状の変化の際は、本人にとってどうあったらよいのか、ご家族の意向を大事に、できるだけ最大の支援ができるよう、その都度話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携し、随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	なるべく今まで使用していた使い慣れたものを持ってきていただいたり、思い出のものや写真などもご本人に合わせてダメージが少なくなるよう、配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライドを傷つけないよう、プライバシーを重んじ、一人ひとりに合った言葉などに注意を図り、対応・かかわりに心掛けている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人ひとり入居者さんに合わせ、できるだけ自分自身で判断をしたり、選んだりできる場面をつくっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な時間の流れはあるが、その日の本人の状態・状況などを配慮し、尊重しながら過ごしていただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出時などの服装や化粧・おしゃれを楽しむことを大切に、入居者さんの希望に沿えるよう心掛けをし、訪問理美容院などに月に1・2回来てもらい、利用している。	○	もっと希望を聞いて理美容院へ行けるように支援したい。気分転換も兼ねて、ホームに来ている出張理美容だけでなく、数人で理美容室などを体験させてあげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの好みを知り、メニューに取り入れ、一緒に準備をしたり、時には外出をして食材を買い出しに行ったり、会話も楽しみながら食事ができるよう心掛けている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	リクエストを聞いたり、好きなものをメニューに取り入れたりして食事を楽しめるようにしている。煙草は食事以外は好きな時に吸えるよう、スタッフ管理のもとで支援している。	○	年に一度でもお酒の提供をしてみたい。少しお腹が空いた時など、好きな時に何か食べられるような環境づくりを工夫したい。(アルコール依存の入居者さんが何人かいて、難しいこととは思いますが。)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間やタイミングをみて、傷つかないように周りの状況にも留意し、声掛けし、トイレへ誘導したり、おむつの確認をしている。今まで失禁のない入居者さんが、されてしまった場合などは、さりげなく失禁対策を考え、プライドを傷つけないように一人ひとりに合わせて、快適に安心して生活できるように配慮するよう取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	声掛けをし、その日の希望を確認して入浴していただいている。タイミングや言葉掛けの工夫により気持ちよく入浴していただけるよう工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活のリズムを把握し、それに沿った声掛けをおこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	レクや行事によって、季節を感じて頂いたり、得意分野を活かせるように計画して行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	レクの際、お金を渡し、個人で支払していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の気分に合わせ、散歩や花や畑での水のやり、ベンチに腰掛けるなど工夫している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	興味や趣味の似ている数人などで出掛け、それぞれの希望を達成するよう努力している。家族へはレクレーションなどを電話や面家時などに参加の呼びかけを行っている。家族と入居者さんでの外出や散歩の機会をできるだけつくるよう取り組んでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	スタッフルームに電話があって、取り次いだり、いつでも掛けることができるような体制になっており、子機で自室でゆっくり会話されている。本人の希望する方への手紙・はがきなどを送りたいときに送れるような体制も十分支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には自室に入って、ゆっくり過ごして会話されている。遠方から来られた場合、宿泊の用意も行っている。	○	事前に計画し、こちらの方から会いに行けるような支援も今後、行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフ全員が理解しており、日々のケアを申し送り、ミーティング等で意識しながらケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけず、自由に出入りすることができるようにしている。外に出て行く気配がある時は、見守りし、様子を見たり、一緒に外で過ごすようにして気配りをしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者さんの様子を把握し、トラブル・変化にすぐ対応できるよう、注意を払っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	はさみ・針・包丁などは必要な時は、状況に応じて見守る中、使用していただいている。ポットなどは自由に使用している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	その都度、状況に応じた原因と今後、未然に防ぐための対策について、注意を払い、職員同士で確認している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	夜間の緊急時の対応などはマニュアルの説明会などを行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒予防に事前にご家族にもものを用意してもらうように連絡したり、状況を説明し、改善できるよう話し合っている。歩行状態の変化や状況変化時は医師の見解も含め、グループホームでのいろいろな場面を想定し、ご家族に説明し、対応を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々、様子観察を行い、気になる体調の変化には早めに担当医へ報告し、受診していただいている。普段と違い、気になる様子が見られる時は、その時の状況・バイタルを記録につけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者さんに合わせた薬の服用の方法を工夫している。処方された薬の内容を把握できるよう介護記録にファイルしたり、薬の変更等が合った場合は副作用など、様子観察をするよう申し送り確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎食後、乳製品などを摂るよう工夫し、水分不足などには気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの声掛けを誘導し、一部一部動作を見守り、入れ歯を使用されている方は洗浄液に入れ、衛生に気をつけている。入居にあたって、習慣になっていない方には、時間をかけて働きかけをしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事、水分の摂取の状況を把握し、体調の変化などが生じた時は、すぐ対応するよう工夫している。また、献立も、量・バランスなど常に注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルをもとに、スタッフが常に意識し、注意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・布きんなどは毎晩、漂泊・消毒し、衛生に気をつけている。食材の管理・冷蔵庫の掃除・賞味期限の確認など、日を決めて行っている。食中毒警報が出た時は、目のつく所にその警報を貼り、特に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前に花を飾り、季節を感じてもらえるように工夫している。ベンチを設置し、花や景色を座ってゆっくりと楽しんだり、休んだりできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	料理の匂いや、匂の野菜・果物を飾ってから調理するなど、季節を感じていただけるように工夫している。居間の壁に季節のものを貼って、雰囲気づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事の席を一人ひとり決め、トラブルやストレスにならないようにしている。ソファ席を設け、ゆっくりくつろげるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、本人の馴染みのものを持ち込んでいただき、安心して生活していただいている。カップや茶碗等、本人の好みのもを買って、使っていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	喫煙者がいるため、空気清浄機を使用している。掃除・居室の換気に心掛けている。	○	喫煙を嫌がる入居者さんへの配慮をしているが、喫煙される入居者さんが増えていく傾向があり、喫煙パターンもそれぞれあり、狭い居間での工夫に限界があり、難しい面もある。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	不安定な歩行など、一人ひとりの状況を考慮し、部屋の設定や移動時などは十分考えて行い、できるだけ自立した生活を送れるようにしている。	○	玄関など、もっと自分自身で靴を脱いだりすることが安全にできるよう、イス・ベンチを増やすなど工夫をし、行いやすくしてみたが、場所に限りがあり、もっと工夫をしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者さん一人ひとりの特徴(こだわりなど)を理解し、共同生活を送るうえで、混乱を避けるよう常に工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関まわりに季節感がわかるように花などを育てて飾っている。天気の良い日を利用し外に出て、軽い食事やおやつなどを食べ、気分転換したり楽しんでいる。	○	気軽に出入りができて、安全な環境で外で過ごせる場があることが望ましいと思う。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホームの生活の中で、掃除のときは入居者さんとスタッフが一緒にする日を設定するなどして、常に共同生活意識しながら生活することを働きかけたり、食事の時はおひつを用意して自分自身でご飯などを好きなように盛っていただいたり、一人ひとりの自室に物干しを用意して干していただくなど、できるだけ自分自身の残存能力を生活の中で活かしていけるように心掛けるよう努めている。また、いつまでもグループホームの生活を送ることができるように健康面・精神面の変化には十分注意を払うようにもしている。